

# 危機管理連絡会議

日時：令和5年6月19日（月）午前9時

場所：県庁405会議室

## 協議事項

○マダニによる「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」等の感染予防について

# 危機管理連絡会議 配席図

## 405会議室

令和5年6月19日(月) 9:00~

危機管理環境部 危機管理環境部 危機管理政策課長  
次長 副部長

県警本部警備部  
警備課災害対策官

教育委員会  
教育政策課副課長

病院局  
総務課副課長

企業局  
経営企画戦略課  
副課長

西部総合県民局  
地域創生観光部  
次長

南部総合県民局  
地域創生防災部  
次長

感染症対策課長

安全衛生課長

危機管理政策課  
副課長

総合政策課  
副課長

総務課副課長

未来創生政策課  
副課長

県土整備政策課 農林水産政策課 商工政策課 保健福祉政策課  
副課長 副課長 副課長 副課長

災対機器室

出入口

## マダニによる「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」等の感染予防について

県内において、今年に入り初めて、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者1名の発生が確認されました。

「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」は、SFTS ウイルスを保有するマダニに刺咬されることで感染するとされており、発症すると重症化することもあるため注意が必要です。

また、マダニは、春から秋（3月から11月頃）にかけてが活動期であり、今後も患者発生の可能性があることから、県民の皆様に対し、広く注意喚起を行うものです。

### 【今回の SFTS 患者の状況】

- 1 患者：美波保健所管内在住の70歳代男性
- 2 主な症状等：発熱、倦怠感、白血球・血小板減少等
- 3 感染原因（推定）：屋外作業でのマダニによる刺咬
- 4 経過等：
  - ・6月15日に発熱あり、6月16日に医療機関受診。
  - ・6月17日、医療機関から美波保健所に行政検査の依頼。
  - ・6月18日、保健製薬環境センターでの確定検査により、「SFTS ウイルス」に感染していたことが確認された。
  - ・現在、入院加療中。

### 【徳島県医学・感染症専門員 馬原 文彦先生からの注意喚起】

- 1 マダニに咬まれないことが重要です。草むらや山など、マダニが生息する場所に入る際は、長袖・長ズボン、手袋、首にタオルを巻くなど肌の露出を避けましょう。
- 2 屋外活動後は入浴しマダニが付着していないか注意深く全身を確認しましょう。
- 3 マダニに咬まれた場合は、無理に引き抜こうとせず、医療機関で処置してもらってください。
- 4 マダニに咬まれた後1～2週間は、発熱、嘔吐、下痢などに注意しつつ、発熱等の症状があった場合は、直ちに医療機関を受診しましょう。

※ なお、マダニによる刺咬は、SFTS 以外にも日本紅斑熱などの複数の感染症を引き起こします。春から秋にかけてマダニに咬まれないように注意してください。

※ SFTS を含む動物由来感染症の感染を防ぐため、ペットとの過剰なふれあいや野生動物との接触は避けましょう。

徳島県では、県ホームページへの掲載、また、関係機関や市町村に対してリーフレットを作成し配付することにより、マダニによる感染予防を呼びかけています。

### 【参考：近年の発生状況】

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
全国 感染者数	61	60	60	90	77	102	75	111	116	2
うち死亡者数	16	11	8	8	4	5	5	9	12	0
徳島県 感染者数	7	3	8	4	1	9	0	3	1	1
うち死亡者数	2	1	2	1	0	1	0	1	0	0

※全国の発生状況については2023年1月31日現在

### 【当感染症発生時の発表取扱い】

SFTS は、四類感染症に分類されており、通常は県感染症情報センターから届出数等の公表を行っておりますが、今回は、県民の皆様への注意喚起等「感染対策上の必要性」から、特に個別発表を行うものであります。患者等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、特定されることがないように、格段の御配慮をお願いします。



# マダニが媒介する新しい感染症 SFTS(重症熱性血小板減少症候群)



タカサゴキララマダニ

**早期発見、早期治療が大切！！**

## 問1: SFTSってどんな病気?

2011年に初めて特定されたSFTSウイルスに感染する事で起こる病気で、6日～2週間の潜伏期を経て、**発熱、消化器症状**(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)で発症します。重症化すれば、死亡することもあります。

## 問2: どのように感染するの?

**SFTSウイルスを保有しているマダニ**に咬まれることにより感染します。マダニの中でも、ウイルスを保有しているマダニは極めてまれですが、発病すると重症化することもあるので十分気をつけましょう。この病気を媒介するマダニは、家ダニなどとは違う種類で、10mmほどの主に野山に生息しているマダニです。

## 問3: どのように予防すればいいの?

マダニに咬まれないことが重要です。草むらや山など、ダニが生息する場所に行く場合には、**長袖・長ズボン・長靴、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出をできるだけ少なくする**ことが大切です。虫除けスプレーも一定の忌避効果が得られます。ペットなどの身近な動物にも気をつけましょう。**屋外活動後は入浴し、マダニが付着していないか注意深く全身チェック**しましょう。

## 問4: もしマダニに咬まれたらどうしたらいいの?

マダニ類の多くは、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、数日間吸血します。無理に引き抜こうとすると、口器の一部が皮内に残ってしまうことがあるので、医療機関で処置してもらってください。**咬まれた後1～2週間は、発熱、嘔気、下痢などに注意しつつ、朝夕に体温を測り、裏面の体温表に記入し、熱が出たら直ぐに医療機関を受診**しましょう。

徳島県医学・感染症専門員 馬原 文彦先生監修

徳島県保健福祉部 感染症対策課

## ダニに咬まれたら1週間くらい朝夕に熱を測りましょう

ダニに刺された 月 日		姓名														体重		kg
		第 日		第 日		第 日		第 日		第 日		第 日		第 日		朝	夕	
体温		朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	
40																		
39																		
38																		
37																		
36																		
35																		

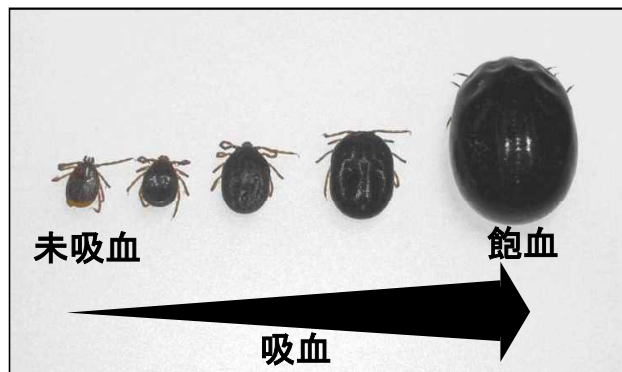
### ヒトを刺咬しているマダニ



腕を刺咬するマダニ



拡大写真:タカサゴキララマダニ



吸血すると3~15ミリ位に膨れる

(写真提供:馬原アカリ医学研究所)

## 1. マダニの生息場所



マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。

マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。



## 2. マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。

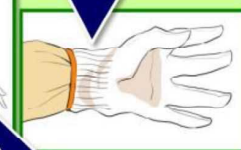


半ズボンやサンダル履きは不適當です！

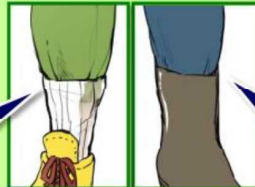
ハイキングなどで山林に入る場合は、ズボンの裾に靴下を被せましょう。



シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れてみましょう。



シャツの裾はズボンの中に入れてみましょう。



農作業や草刈などではズボンの裾は長靴の中に入れてみましょう。

### 3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、  
家の中に持ち込まない  
ようにしましょう。



屋外活動後は、  
シャワーや入浴で、  
ダニが付いていないか  
チェックしましょう。



**ガムテープ**  
を使って服に  
付いたダニを  
取り除く方法  
も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

### 4. 忌避剤の効果

海外ではマダニ対策に**忌避剤(虫よけ剤)**が使用されていますが、日本には、マダニ用に市販されている忌避剤は今のところありません。

日本では、ツツガムシ（ダニ目ツツガムシ科）を忌避する用途で、衣服に塗布して使用する忌避剤（医薬品）が複数市販されています。

このような忌避剤を使用し、マダニに対して一定の忌避効果が得られることが確認されました。



**ディート（忌避剤）**の使用でマダニ付着数は減少しますが、マダニを完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。



## 「ワンヘルス」の推進について

### 1 「徳島県ワンヘルス推進条例」の制定（令和5年3月14日・徳島県条例第23号）

#### （1）背景・目的

- ・ 動物由来感染症から人の健康を守るためには「動物の健康」及び「環境の健全性」が重要であり、医師、獣医師、環境科学をはじめとする各学術分野の研究者及び関係機関が分野を越えて連携する「ワンヘルス」への取組が世界的に求められており、その実践に向けた理念浸透が喫緊の課題
- ・ 「ワンヘルス」の理念浸透に向けた取組を推進することにより、県民及び県内で飼養・生息する動物の健康並びに環境の健全性を一体のものとして守ることができる社会の構築を目指す

#### （2）「ワンヘルス推進」にあたっての基本理念

- ・ 「人の健康」には、「動物の健康」及び「環境の健全性」が相互に密接に連携していることを、県民一人一人に理解されることを旨として実施
- ・ 県、医師、獣医師、研究者及び関係機関が協力・連携して実施

#### （3）県の責務

- ・ 県民への「ワンヘルス」に関する知識の普及
- ・ 県民の「ワンヘルス」に関する活動の支援
- ・ 野生動物の生息環境の保全
- ・ 動物由来感染症に関する連携体制の整備
- ・ 動物由来感染症の発生防止

※ 医師、獣医師、研究者及び関係機関の役割も規定

### 2 「ワンヘルス」推進に向けた取組

「ワンヘルス」の意義・重要性等について、関係者・関係機関等と連携し、県民に広く周知・啓発

「ワンヘルス推進月間（9月）」に、

- ・ セミナー、講演会の開催
- ・ わかりやすく解説した動画の作成・配信
- ・ イベントでのブース出展